

3 集合を作り得る関係式

[sthmsm!]

定理 3.1. R を関係式とし, x を文字とする. また y を x と異なり, R の中に自由変数として現れない文字とする. このとき

$$(3.2) \quad !y(\forall x(x \in y \leftrightarrow R))$$

が成り立つ.

[sthmsmex!]

定理 3.2. R を関係式とし, x を文字とする. また y を x と異なり, R の中に自由変数として現れない文字とする. このとき

$$(3.19) \quad \text{Set}_x(R) \leftrightarrow \exists !y(\forall x(x \in y \leftrightarrow R))$$

が成り立つ.

[sthmsmbasis]

定理 3.3. a を集合, R を関係式とし, x を a の中に自由変数として現れない文字とする. このとき

$$\forall x(x \in a \leftrightarrow R) \rightarrow \text{Set}_x(R)$$

が成り立つ. またこのことから, 次の 1), 2) が成り立つ.

- 1) $\forall x(x \in a \leftrightarrow R)$ ならば, R は x について集合を作り得る.
- 2) x が定数でなく, $x \in a \leftrightarrow R$ が成り立てば, R は x について集合を作り得る.

[sthmallegsmlem]

定理 3.4. R と S を関係式とし, x を文字とする. また y を x と異なり, R 及び S の中に自由変数として現れない, 定数でない文字とする. このとき

$$(3.23) \quad \forall x(R \leftrightarrow S) \rightarrow \forall y(\forall x(x \in y \leftrightarrow R) \leftrightarrow \forall x(x \in y \leftrightarrow S))$$

が成り立つ.

[sthmallegsm]

定理 3.5. R と S を関係式とし, x を文字とする. このとき

$$(3.29) \quad \forall x(R \leftrightarrow S) \rightarrow (\text{Set}_x(R) \leftrightarrow \text{Set}_x(S))$$

が成り立つ. またこのことから, 次の 1)—4) が成り立つ.

- 1) $\forall x(R \leftrightarrow S)$ ならば, $\text{Set}_x(R) \leftrightarrow \text{Set}_x(S)$.
- 2) x が定数でなく, $R \leftrightarrow S$ が成り立てば, $\text{Set}_x(R) \leftrightarrow \text{Set}_x(S)$.
- 3) $\forall x(R \leftrightarrow S)$ であるとする. このとき R, S のうちの一方が x について集合を作り得るならば, 他方も x について集合を作り得る.
- 4) x が定数でなく, $R \leftrightarrow S$ が成り立つとする. このとき R, S のうちの一方が x について集合を作り得るならば, 他方も x について集合を作り得る.

[sthmisetbasis]

定理 3.6. R を関係式, T を対象式とし, x を文字とする. このとき

$$(3.45) \quad \text{Set}_x(R) \rightarrow (T \in \{x \mid R\} \leftrightarrow (T|x)(R))$$

が成り立つ. またこのことから, 次の 1), 2) が成り立つ.

- 1) R が x について集合を作り得るならば, $T \in \{x \mid R\} \leftrightarrow (T|x)(R)$.
- 2) R が x について集合を作り得るとする. このとき $T \in \{x \mid R\}$ ならば, $(T|x)(R)$ である. またこのとき $(T|x)(R)$ ならば, $T \in \{x \mid R\}$ である.

[sthma=iset]

定理 3.7. a を集合, R を関係式とし, x を a の中に自由変数として現れない文字とする. このとき

$$\forall x(x \in a \leftrightarrow R) \rightarrow a = \{x \mid R\}$$

が成り立つ. またこのことから, 次の 1), 2) が成り立つ.

- 1) $\forall x(x \in a \leftrightarrow R)$ ならば, $a = \{x \mid R\}$.
- 2) x が定数でなく, $x \in a \leftrightarrow R$ が成り立てば, $a = \{x \mid R\}$.

[sthmsmbasis&iset=a]

定理 3.8. a を集合, R を関係式とし, x を a の中に自由変数として現れない文字とする. このとき

$$(3.46) \quad \forall x(x \in a \leftrightarrow R) \leftrightarrow \text{Set}_x(R) \wedge \{x \mid R\} = a$$

が成り立つ. またこのことから, 次の (3.47) が成り立つ.

$$(3.47) \quad R \text{ が } x \text{ について集合を作り得るとき, } \{x \mid R\} = a \text{ ならば, } \forall x(x \in a \leftrightarrow R).$$

[sthmsmtiset&asubset]

定理 3.9. a を集合, R を関係式とし, x を a の中に自由変数として現れない文字とする. このとき

$$(3.55) \quad \text{Set}_x(R) \rightarrow (\forall x(x \in a \rightarrow R) \leftrightarrow a \subset \{x \mid R\}),$$

$$(3.56) \quad \text{Set}_x(R) \rightarrow (\forall x(R \rightarrow x \in a) \leftrightarrow \{x \mid R\} \subset a)$$

が共に成り立つ。またこれらから、次の 1) が成り立つ。

1) R が x について集合を作り得るならば、

$$\forall x(x \in a \rightarrow R) \leftrightarrow a \subset \{x \mid R\}, \quad \forall x(R \rightarrow x \in a) \leftrightarrow \{x \mid R\} \subset a$$

が共に成り立つ。

更に、 R が x について集合を作り得るとき、次の 2)—5) が成り立つ。

2) $\forall x(x \in a \rightarrow R)$ ならば、 $a \subset \{x \mid R\}$ 。また $a \subset \{x \mid R\}$ ならば、 $\forall x(x \in a \rightarrow R)$ 。

3) x が定数でなく、 $x \in a \rightarrow R$ が成り立てば、 $a \subset \{x \mid R\}$ 。

4) $\forall x(R \rightarrow x \in a)$ ならば、 $\{x \mid R\} \subset a$ 。また $\{x \mid R\} \subset a$ ならば、 $\forall x(R \rightarrow x \in a)$ 。

5) x が定数でなく、 $R \rightarrow x \in a$ が成り立てば、 $\{x \mid R\} \subset a$ 。

[sthmspiniset]

定理 3.10. A と R を関係式とし、 x を文字とする。このとき

$$\text{Set}_x(A) \rightarrow ((\exists x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \exists_A x(R)), \quad \text{Set}_x(A) \rightarrow ((\forall x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \forall_A x(R)),$$

$$\text{Set}_x(A) \rightarrow ((\exists! x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \exists!_A x(R)), \quad \text{Set}_x(A) \rightarrow ((\exists! x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \exists!_A x(R))$$

がすべて成り立つ。またこれらから、次の (3.67) が成り立つ。

$$(3.67) \quad \begin{aligned} &A \text{ が } x \text{ について集合を作り得るならば,} \\ &(\exists x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \exists_A x(R), \quad (\forall x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \forall_A x(R), \\ &(\exists! x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \exists!_A x(R), \quad (\exists! x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \exists!_A x(R) \text{ がすべて成り立つ.} \end{aligned}$$

[sthmallegiset=]

定理 3.11. R と S を関係式とし、 x を文字とする。このとき

$$(3.68) \quad \forall x(R \leftrightarrow S) \rightarrow \{x \mid R\} = \{x \mid S\}$$

が成り立つ。またこのことから、次の 1), 2) が成り立つ。

1) $\forall x(R \leftrightarrow S)$ ならば、 $\{x \mid R\} = \{x \mid S\}$ 。

2) x が定数でなく、 $R \leftrightarrow S$ が成り立てば、 $\{x \mid R\} = \{x \mid S\}$ 。

[sthmsmtalltisetsubseteq]

定理 3.12. R と S を関係式とし、 x を文字とする。このとき

$$(3.71) \quad \text{Set}_x(R) \wedge \text{Set}_x(S) \rightarrow (\forall x(R \rightarrow S) \leftrightarrow \{x \mid R\} \subset \{x \mid S\})$$

が成り立つ。またこのことから、次の 1), 2), 3) が成り立つ。

1) R と S が共に x について集合を作り得るならば、 $\forall x(R \rightarrow S) \leftrightarrow \{x \mid R\} \subset \{x \mid S\}$ 。

2) R と S が共に x について集合を作り得るとする。このとき $\forall x(R \rightarrow S)$ ならば、 $\{x \mid R\} \subset \{x \mid S\}$ 。またこのとき $\{x \mid R\} \subset \{x \mid S\}$ ならば、 $\forall x(R \rightarrow S)$ 。

3) x は定数でないとする. また R と S は共に x について集合を作り得るとする. このとき $R \rightarrow S$ ならば, $\{x \mid R\} \subset \{x \mid S\}$.

[sthmsmtalleqiset=eq]

定理 3.13. R と S を関係式とし, x を文字とする. このとき

$$(3.79) \quad \text{Set}_x(R) \wedge \text{Set}_x(S) \rightarrow (\forall x(R \leftrightarrow S) \leftrightarrow \{x \mid R\} = \{x \mid S\})$$

が成り立つ. またこのことから, 次の 1), 2) が成り立つ.

- 1) R と S が共に x について集合を作り得るならば, $\forall x(R \leftrightarrow S) \leftrightarrow \{x \mid R\} = \{x \mid S\}$.
- 2) R と S が共に x について集合を作り得るとする. このとき $\{x \mid R\} = \{x \mid S\}$ ならば, $\forall x(R \leftrightarrow S)$.